

ぼくが生きてる、 ふたつの世界

伝えられない想いが
あふれます。

監督: 呉美保 主演: 吉沢亮 脚本: 港岳彦

忍足亜希子 今井彰人 ユースケ・サンタマリア 烏丸せつこ でんでん

原扶貴子 山本浩司 河合祐三子 長井恵里

原作: 五十嵐大「ぼくが生きてる、ふたつの世界」(幻冬舎刊) 企画・プロデュース: 山国秀幸

製作: 「ぼくが生きてる、ふたつの世界」製作委員会(ワンダー・ポスター・フィルム/博報堂DYエンタテインメント/ビクター/ギャガ/JR西日本コミュニケーションズ/アイ・ビー・アイ/アイ・エス・エス/河北新報社/東日本放送/テレビ朝日)

助成: ◎大井 文化庁文化芸術振興費補助金(映画創造活動支援事業) 独立行政法人日本芸術文化振興会

©五十嵐大/幻冬舎 ©2024「ぼくが生きてる、ふたつの世界」製作委員会 配給: ギャガ GAGA gaga.ne.jp/FutatsunoSekai/

母に背を向け、故郷を離れたぼく――。

繊細に紡がれる、きこえない母ときこえる息子、そしてあなたの物語。

GAGA★
GENDA GROUP

＊コーダ：きこえない、またはきこえにくい親を持つ聴者の子供

親子の物語が、そしてひとりのコーダの心の軌跡が、点描のように紡がれていく――。監督は、本作が9年ぶりの長編作品となる、『そのみにて光輝く』『きみはいい子』の呉美保。作家・五十嵐大氏の自伝的エッセイを原作に、脚本は『正欲』の港岳彦。吉沢亮が、“きこえる世界”と“きこえない世界”を行き来しながら生きる主人公を体現、自身の居場所を見出していく若者の心を繊細に演じた。母・明子役には、ろう者俳優として活躍する忍足亜希子。
やがて母への想いが観る者の胸にも静かに温かく満ちていく、心に響く映画が誕生した。



母と息子、切なくも心に響く家族の物語

Story

宮城県の小さな港町、五十嵐家に男の子が生まれた。祖父母、両親は、“大”と名付けて誕生を喜ぶ。ほかの家庭と少しだけ違っていたのは、両親の耳がきこえないこと。幼い大に

としては、大好きな母の“通訳”をすることも“ふつう”の楽しい日常だった。しかし次第に、周りから特別視されることに戸惑い、苛立ち、母の明るささえ疎ましくなる。心を持て余したまま20歳になり、逃げるように東京へ旅立つ大だったが……。



「千曲市手話言語条例」制定記念
「ぼくが生きてる、ふたつの世界」千曲市上映会

令和8年 **1月17日(土)** ^{めぐみ} **信州の幸あんずホール 大ホール**

①10:30 (開場9:30) **②14:00** (開場13:00) 満席の際は次回にお回りいただくこともございます

前売券 一般・シニア・大学生 **1200円** ※小中高生は、当日券のみの取扱いとなります

当日券 一般・シニア1500円 大学生1300円 小中高生800円(小学生未満無料)

【前売券取扱所】信州の幸あんずホール、戸倉創造館、上山田文化会館、千曲市社会福祉協議会

【主催】「ぼくが生きてる、ふたつの世界」千曲市上映実行委員会

【実行委員会】千曲市聴覚障害者協会、ちくま手話サークル、要約筆記グループバーバル、千曲市社会福祉協議会、千曲市ボランティア連絡協議会、千曲市身体障害者福祉協会、千曲市手をつなぐ育成会、千曲商工会議所、戸倉上山田商工会、千曲市連合婦人会、更埴ロータリークラブ、戸倉上山田ロータリークラブ、更埴ライオンズクラブ、戸倉上山田ライオンズクラブ、千曲市

【後援】千曲市教育委員会、信州ケーブルテレビジョン

【共催】信濃毎日新聞社

【お問合せ】千曲市福祉課 障がい者福祉係 TEL:026-273-1111(内線1273) FAX:026-273-8011
e-mail:s-fukushi@city.chikuma.lg.jp